

避難所で、地域でみんなができる子どもたちの居場所づくり。
災害はいつどこで起きるかわかりません。
いざという時のために、子どもが安心して安全に過ごせる場所を
一緒に考えませんか。

子どもにやさしい空間 ～CFS～

Child Friendly Space



「子どもにやさしい空間」とは？

災害や事故で子どもたちは一瞬に「日常」という支えを失います。
「子どもにやさしい空間」は、不安や様々な危険に直面している子どもたちが、安心して、安全に過ごせる「居場所」のことです。
様々な年齢の子どもに合った「遊び」や「学び」の場を提供する活動です。

国連児童基金:ユニセフ(本部:ニューヨーク)は世界の緊急支援の現場で「子どもにやさしい空間」を設置することを促進するため、2009年に「A Practical Guide for Developing Child Friendly Spaces」というマニュアルを発行しました。

日本ユニセフ協会と災害時こころの情報支援センターはこの英文マニュアルから、東日本大震災の経験を盛り込んで、日本版「子どもにやさしい空間」ガイドブックを2013年に作成しました。



「子どもにやさしい空間」を設置するための6つの大切なこと

- ①子どもにとって安心・安全な環境をつくります
- ②どんな子どもも受け入れ、支え合って営んでいきます
- ③地域の特性や文化を大切に、体制や対応力に基づいています
- ④大人も子どもも参加して、みんなで居場所をつくっていきます
- ⑤さまざまな得意な分野を出し合います
- ⑥誰にでも開かれている場所です



どうしてコープみえが取り組んでいるの？



東日本大震災の発災時、子どもが辛い思いをしている場面を私たちは目の当たりにしました。

そこで、日本ユニセフ協会と災害時こころの情報支援センターが作成した「子どものやさしい空間ガイドブック」をもとに、コープみえはその考えを多くの人にひろめる活動を推進することになりました。

今後も起きうる災害時、長い避難所生活を送ることになったとき、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所が必要です。

コープみえは、ビジョンの一つに「安心して暮らし続けられる地域社会づくりをすすめます」と掲げています。地域と協同して社会的役割を担うことをめざしています。

緊急事態において子どもたちが避難した先で、安全に安心して過ごせる、子どもにやさしい空間について知っていただき、コープみえの子どもから高齢者まで様々な世代のつながりを活かして、いざという時に地域のさまざまな人たちと協力しながら、「子どもにやさしい空間」をつくりたいと思っています。



「子どもにやさしい空間」を知っていただくために



コープみえでは子どもにやさしい空間(以下 CFS)推進チームを発足し、CFS を多くの方へ知っていただくために啓発活動をしています。

- ・エリア会主催の子ども企画、避難所なんなんゲームと子どもにやさしい空間づくり
- ・20周年フェスタにて避難所体験や子どもにやさしい空間づくりの啓発
- ・お知らせカードなどの啓発グッズ作成

さまざまな機会や活動を通じて、CFS を多くの方にお知らせしています。

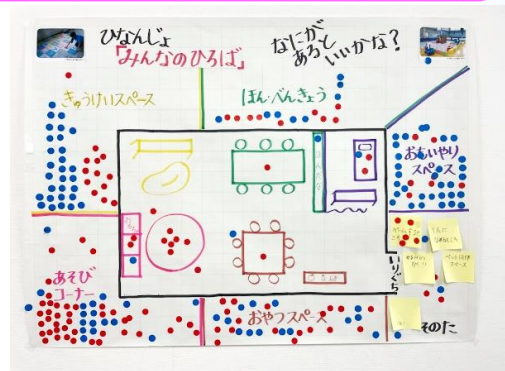


コープみえ CFS お知らせカード

コープみえ 20周年フェスタ出展
CFS「子どもにやさしい空間」



子供たちのために、一人でも多くの人に CFS の想いを
知ってもらい、地域の避難所設営時に一緒に声をあげて
もらえるように、呼びかけています。



CFS のある避難所について、
来場者に考えてもらいました。



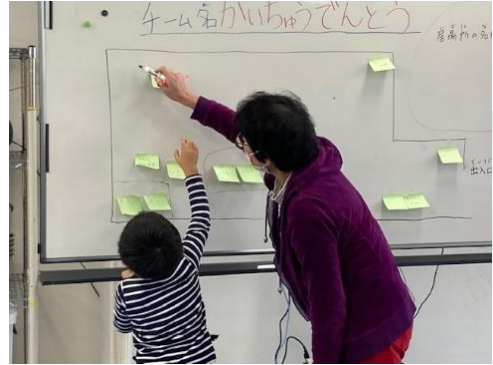
ひなんじょ「みんなのひろば」

すごろくやゲームをとおして、防災について学び、災害時の「こどもが安心できる場所」について参加者で考え合い、「子どもにやさしい空間」デザインしました。



鈴鹿地域エリア会にて

※エリア会とは
地域の困りごとの問題解決や地域政策の実現に向けて、地域のくらしをよくするために様々な活動しています。



みんなで考えた CFS「子どもにやさしい空間」デザイン

なにがあるといいかな？
みんなでかんがえよう！

べんきょうスペース
机、いす、文房具、時計



きゅうけい
スペース

おやつ、のみもの



おもいやり
コーナー



あそびコーナー
おもちゃ
絵本



床はマットか
じゅうたんを敷く

受付
テーブル

靴ぬぎ場

出入口

お問い合わせは コープみえ組織活動推進課まで
電話 059-271-8503 月～金 9:00～17:30

